

# 一人ひとりが大切にされる社会

6面 正義に基づく平和の実現のために

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)  
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する  
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第31総会期主題  
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

12

DECEMBER  
2014

No.723

[www.ywca.or.jp](http://www.ywca.or.jp)

浜矩子  
講演会

# さくらば

# アベノミクス

一人ひとりが  
大切にされてこそ経済



浜矩子

Hama Noriko  
エコノミスト/  
同志社大学大学院教授

# Abenomics



## 経済とは人権の礎

安倍首相が臨時国会の所信表明演説で強調していたのは、「経済最優先」という言葉だった。集団的自衛権の行使や憲法改正、特定秘密保護法、近隣諸国との外交安全保障政策において暴走す

10月4日、国内外のメディアで活躍中の浜矩子さんを講師にお迎えした。「強い経済、強い日本を取り戻す」と安倍首相が推し進めるアベノミクスを「アホノミクス」と一刀両断。私たちは何を合言葉に、どこを目指していくべきなのか。混迷の時代の指針をいただいた。(文責・編集部)

るのではという懸念への対応かと思われる。しかし、その言葉の本来的意味が理解されているとは思えない。

経済活動は、人間が人間であることの証し、人権の礎であり、人間を幸せにすることが目的である。「経済最優先」の政策は、本来「人間最優先」という意味をもたずである。しかし実際は、効率や収益性を追求するほど、その犠牲となつて人権を踏みにじられている人が多くいる。非正規雇用者の痛み、ホームレスの人々の苦しみ、ワーキングプアと呼ばれる人々の非人間的な生活をみれば、経済活動と人間は対立する関係

にあるようにも思われる。だが私たちは、人間を多少なりともないがしろにするような活動を経済活動であるとは断じて認めない、ということを出発点にしたい。

## 「取り戻したがり病」

アベノミクスは、たちの悪い「取り戻したがり病」に冒されている。2014年の年頭所感では、「強い日本」「強い経済」「誇りある日本」を取り戻すと述べている。また6月の日本再興戦略の中では、生産性向上、日本再興のために「国民一人ひとり」が頑張るべき時であるとしている。ここでは、



浜さんとパチリ

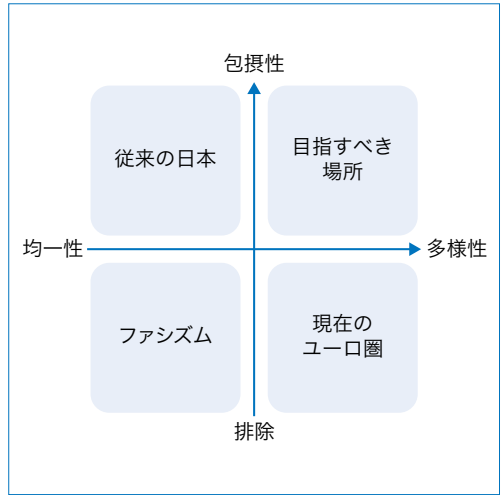
零細企業や地域社会が直面している痛みや悩み、その苦境をどのように改善していくかということには触れていない。

「取り戻したがり病」のもとにあつては、国力ばかりが目目されて、国民一人ひとり、強い経済、強い日本国家のために働く存在である。経済活動とは人間の幸せのためであるという理解認識に基づいていない。

それでは、本来の経済活動のあり方の行動規範とは何か。それは「己が欲するところに従えども矩を越えず」という孔子の言葉である。自分が望んでいる通りにのびのびと自己を展開するが、人をないがしろにしたり人権を踏みにじったりすることはしない、というバランスが、経済活動の本来あるべき姿である。

### 奪い合いの「シェア」から分かれ合いの「シェア」へ

「シェア」は、「市場占有率」として使われることが多い。100%のパイの中で自分の「シェア」を上げるためにはだれかから奪ってこなくてはならない。「取り戻す」とは「奪い合いのシェア」の典型的な言葉である。それに対して、私たちが目指すのは、もう一つの「シェア」、一つのを共に「分かち合うシェア



### 多様性と包摂性が出会う場所

ここで、座標平面をイメージしていただきたい。縦軸は包摂性の軸。上に行くほど包摂性が高まり、下に行くほど排除の論理がでてくる。横軸は多様性。右に行くほど多様性が豊かに表れ、左に行くほど多様性は後退して、均一性が優位になる。

座標軸の左上、包摂性と均一性が出会う場所は従来の日本である。終身雇用、年功序列等という言葉が使われていた日本の経営では、いったん就職すると、横並びで出世していくことのできる包摂性をもつが、

出る杭は打たれるという均一性を重んじてきた。

右下のエリアでは、多様性は確保されているが、排他性が前面に出ている。現在のユーロ圏では、多様な民族、宗教、歴史、文化的背景を抱えた人たちがひしめき合い、互いに抱きあうことができず、互いがみ合いの状態になっている。

左下のエリアは、排他性、均一性の論理が重くのしかかっている暗黒空間、ファシズムである。グローバル経済の中でますます思い浮かぶのは、「北朝鮮」やロシア、そして大阪だ。

それでは、私たちはどこを目指していくのか。それは、座標軸の右上の第一象限、包摂性と多様性が豊かに発現する場所だ。多様な一人ひとりが出会い、抱きとめあえる社会である。このような社会は、前人未踏の領域だからこそ、目指すことによつて次の時代を開いていく可能性がある。今、政治はそこから一番遠いところに来てしまっているが、日本の成熟した豊かな経済の潜在力を開花させるという方向に進めば、その理想郷を実現することができるはずだ。私たちはアベノミクスに決然と別れを告げ、新しい知恵の時代を迎えたい。

### 教育の現場で感じること

樋口 さやか

現在政府は、国際バカロレア認定校の拡大やスーパーグローバルハイスクール(SGH)の設置など、国際化に対応した教育改革を行っている。私が働いている中高一貫校も、その取り組みの一つとして国際化に対応した人材を育成するべく邁進している。実際、スタッフの半分は外国人で、さまざまな文化的背景を持つ生徒たちも少なからずいる。

今後社会が国際化していく中で、教育もそれに対応した取り組みは必須であると考えられる。しかし、土台となる他者に対する寛容さや他者理解の姿勢が育たない限りは、グローバルな人材を生み出すことはできないだろう。

私の勤務校も当初は大きな困難に直面していた。例えば、教員や保護者など関係する大人たちも高度な異文化コミュニケーション能力を要求される。このことは、時に大人たちから余裕を奪い、子どもたちにも影響を与えることがあった。そのような状況では、外国人教員の良さも生かされず、教室内の多様性もいじめの潜在的な原因として恐れる対象でしかなかった。

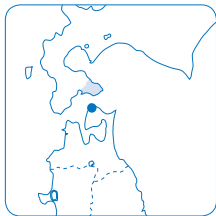
その後、外国人と日本人とのコミュニケーションが増えたことで子どもたちを取り巻く状況は好転した。今、私の担任クラスには他国にゆかりをもつ生徒も一割ほどいる。マジョリティーの子どもたちも、彼らの違いを個性として少しずつ受け入れ、ほかにはないクラスづくりを始めている。

グローバル化の波の中で、本当に必要な教育とは何か。しっかりと見極めなければ、ただ弱い立場にいる子どもたちを苦しめる教育を続けてしまう。

(福岡YWCA会員)



# 大間原発を知って、 考える



「あさこはうす」の前で

## Nukes with you.

10月12～13日、日本YWCAが主催する表題のツアーが、大自然に囲まれた北海道・函館そして津軽海峡に面する青森県下北半島の大間町で実施され、参加者19名が集った。大間原発とは、大間町に建設中の世界初の「フルMOX原発」である。大間原発で使われる核燃料は全てMOX燃料。MOX燃料は、使用済み核燃料から取り出したプルトニウムとウランを混ぜてつくられる。MOX原発は、制御が難しく、また毒性の強いプルトニウムを扱うため、非常に危険な原発である。

1日目には、2人の講師より話を聴いた。大間原発建設差し止め訴訟弁護団共同代表である森越清彦さんには、プルトニウム処理技術にこだわる政府の方針が核兵器保有のねらいにつながっていることを伺った。2人目の講師、「大間原



森越清彦さん



竹田とし子さん

発訴訟の会」代表の竹田としさんは、学生時代に出会ったYWCAの「核」否定の思想（核兵器だけでなく原発等、核の「平和利用」をも否とする姿勢）に共鳴し、函館で長年にわたり反原発運動を続けてこられた。「後の世代に大間原発のようなものを残してはいけない」と力強く語ってくださった。

2日目、恵まれた天候の中、函館港から波の静かな津軽海峡をフェリーで渡り、大間町の「あさこはうす」を訪ねた。「あさこはうす」

とは、大間原発建設予定地とされた場所の中央に土地を持ち、電源開発株式会社による買収を拒否し続けた熊谷あさ子さんが建てたログハウスで、意志を受け継いだ娘の小笠原厚子さんが守り続けている。厚子さんは私たちに温かく迎えてくださり、「この土地はどんなことがあっても売らない。子どもが安心して自由に遊べる場所をつくりたい。素晴らしい大自然を子どもたちに感じてほしい。焦らず一歩一歩、一緒に頑張ろう」等、たくさんの言葉を掛けてくださった。しかし大間原発と「あさこはうす」は目と鼻の先だ。目の前の現実に胸が痛くなった。

No nukes with you. 今回のツアーを通しての出会いや学びの芽を、みなさんと共に、これから大きな木や実にしていきたい。

甲府YWCA会員 奥田尚子



大阪YWCA  
被災地支援  
保養プログラム

わいわい  
ステイ

福島を中心とした被災地の子どもたち対象の大阪YWCA保養プログラム「わいわいステイ」。震災直後から行っており、この夏で7回目になりました。今回は7名の子どもたちが参加。恒例通り、初日は大阪YWCAシヤロン千里でボランティアが子どもたちを迎え、会員手作りの夕食でスタートしました。

保養プログラムの目的は、「放射線による被曝の心配なく、思いきり外で遊ぶ」です。川遊びやキャンプの他に、近くの公園に水風船をもって出かけた時のこと。今回の参加者は高学年の子が多かったので、住宅街にある普通の公園で楽しめるかが気



ミニコンサートの後、シンセサイザーに触らせてもらいました



思いっきり川遊び

Wai Wai Stay

になりましたが、ボランティアリーダーが水風船を膨らませ、みんなに向かって投げると一気にヒートアップ。子どももリーダーも水浸しになってはしゃいでいました。公園遊びの最後に子どもたちからの提案でかくれんぼをすることに。ベンチの向こう側や草むらに隠れているみんなの無邪気でした。そんな表情が可愛らしく、キュンとしてしまいました。

その後はシヤロン千里に戻り、コンサートの参加したりおやつ作りをしたりしました。緊張からか、食事を口に出来なかった子もいましたが、リーダーに甘え、体いっぱい遊んだ後、みんなで作ったおやつを頬張ると、

食欲が戻りました。子どもが戸外で心も体も開放して遊ぶことの大切さをあらためて感じました。

子どもたちをお預かりする責任から、期間中は緊張の1週間でもあります。しかし、私たちは福島の厳しい現状を知り、そこでの生活を余儀なくされている一人ひとりの子どもたちと親御さんの不安や心配、悔しさなどを想像しなければならぬと思います。出来ることは少しですが、これからさらなる支援が必要になることは間違いありません。課題は資金と人手ですが、何とか工夫して息の長い支援をしていきたいと思っています。

大阪YWCA会員 吉田信子

東日本大震災  
被災者支援募金

この募金は、各地域のYWCAが実施する被災地の子どもたちのための保養プログラムや、セカンドハウス\*プログラムに用いられます。ご寄付の方法については8面をご覧ください。



\*被災地に暮らす子どもとその家族・女性の単身者(40歳以下)が、被災地を離れて滞り続ける家

このゆび  
と一まれ!

## 湘南YWCA 子育て支援 親子プログラム

# ほっとスペース なのはな

湘南YWCAに「ほっとスペースなのはな」が誕生して11年。およそ100人の子と達とお母さんが巣立って行った。幼稚園就園前の2歳から3歳のあどけない子と達とお母さんたち。お母さんは新米もいればベテランもあり、始めはぎこちないが時間と共にお互いに共感し合える関係が生まれる。保育

経験者のリーダーとこの教室卒業生のお母さんのサブリーダー、そして湘南YWCA関係者による見守り隊と、毎回子どもの数とほぼ同数の大人たちが活動を支えている。昨年度はその子ども達3人に妹



遊具作り



手遊び



お母さんのフラワーアレンジメント講習会

や弟が誕生した。赤ちゃんを外に出せるような月齢になると、お母さんは休ませていた上の子のために、積極的に教室に戻ってくる。それは安心して見てもらえる「おばあちゃん」役の見守り隊がいるからかも知れない。「おばあちゃん」達も結構楽しませてもらっている。今年もまた3人赤ちゃんが誕生の予定!

昨今は子育て支援のために、行政がいろいろな取り組みを展開している。また、母親達自身が企画した活動も多い。そんな中で「なのはな」は、有り難いことに毎年卒業生のお母さん達の口コミで参加を決める家庭が多い。経験の深いリーダーたちの保育、おやつタイムには会員手作りのこだわりのおやつ、お母さん達が楽しんで参加できるプログラムなど、すべてが手作りの「なのはな」の、他のグループとは違う魅力が評価されているのかも知れない。実はこの子育て支援は、25年前に会員の松山恭子さんが、地域及

び旧知の若い保育経験者の協力を得て、自宅を開放して始めたというルーツがある。その頃は子ども主体だったが、湘南YWCAの活動となつてからは、お母さんにも積極的に参加していただくためのプログラムを年間を通して組んでいる。前述のように、地域に根差して長い歳月が経過した「なのはな」だが、少子化や共働き所帯の増加等は、新年度をスタートさせる際の心配の種になっている。また、地域の幼稚園がこぞってプレスクールと称して就園年齢前の子どもの保育事業を始めている。その子どもたちこそ「なのはな」に相応しい年齢なのである。しかし、スタート時に少人数で始めても、今年もいつのまにか定員いっぱいの子と達が集まってきた。地域で必要とされる限り続けるためには、何よりこの活動を担っている湘南YWCAの会員たちが気力・体力を持続させなければ!!

湘南YWCA会員 杉本策子

## 種

ところが、彼がベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

(ルカによる福音書 2章6〜7節)

わたしが働いていた伝道所で、クリスマスの劇をしました。工作好きの私は各種小道具担当。ところが、マリア役の子がイエスさま人形を飼葉桶に置いてくれません。目に涙をためて「イエスさまがかわいそう」と言います。「この飼葉桶、お墓みたい」「生まれたばかりなのに、すぐに死んだの?」と。

この子が話した言葉は的を射ています。飼葉桶は木製の家畜の餌入れですが、石棺のような形をしたものもあります。初産のマリアが新生児を石棺の中に入れなければならぬ悲痛を思います。この姿に、イエスさまが後に大きな石でふさがれた墓に収められることが暗示されています。「布にくるんで」とは埋葬の様子です。宿屋には場所がないからです。人が寝起きし、食する場所がないのです。

クリスマス「キリスト礼拝」は、一人の母の涙が拭われることです。一人の新生児が石の棺から取り出されるために、わたしには何ができるかを問う目だと、小さいマリアから学びました。わたしたちの心に、マリアをお泊めする場所がありますように。

渡邊さゆり  
日本バプテスト神学校教務主任

# 正義に基づく 平和の実現のために、 私たちにできること

今年7月、イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの本格的な空爆が始まり、50日以上にわたる空爆と地上侵攻で、ガザでは多くの非武装市民、なかでも女性と子ども多数を含む2,200人以上が殺害され、負傷者は1万人以上にのぼりました。おびただしい数の住居、また病院や診療所、学校、水道・発電施設等多くのインフラが破壊され、一時は人口の4分の1にあたる45万人が避難を余儀なくされました。現在も「一時停戦」にすぎず、解決にはほど遠い状況です。

今回の攻撃以前から、パレスチナではイスラエルによる人権侵害が続いていました。分離壁の建設、強制的な土地家屋の収奪、不法な入植活動、封鎖等です。ガザには数年おきに激しい空爆も行われており、住居や避難施設である国連施設も攻撃されるなど、イスラエル側の明らかな国際法違反が続いて

います。

そのパレスチナのベツレヘムで、世界YWCAは、9月末から10月初めにかけて国際会議を共催しました。平和構築における女性の参画を求めた画期的な国連安保理決議1325号(2000年)の、パレスチナでの実現をめざした会議です。

会議では、占領下のパレスチナでは公共サービスが十分に受けられず、収入は減り、強制退去や移動の制限が行われてきたこと、そのため人々の不満や怒りはつのる一方、自己肯定感や減退し、安全・安心も失われていることが伝えられ、こうしたすべてが女性に対する暴力の恒常化につながっているとの報告がありました。

また、国際社会がイスラエルの国際法違反を放置していることに対する世界中の市民の抵抗として注目を集めたのが、イスラエルへの投資凍結、イスラ

エル製品の不買、イスラエルへの武器輸出禁止などを手段としたBDS運動です。スーザン・ブレナン世界YWCA副会長は、世界中のYWCAがBDSに取り組めるよう、2015年の世界総会で提案したいと述べました。

日本政府もパレスチナの状況に無縁ではありません。今年4月1日の閣議で、「武器輸出三原則」に代わる「防衛

装備移転三原則」が決定され、武器や関連技術の輸出禁止基準が大幅に緩和、イスラエルへの武器輸出も可能になったとされています。私たちは、政府にこのような武器輸出を行わないよう働きかけなければなりません。正義に基づく平和を実現するためには、世界中の市民が自国政府や国際社会に対し、イスラエルの国際法違反に加担しない、

これを認めない、という明確な意思を示すよう求めていくことが必要です。

東京YWCA会員 西 文字

## Peace with Justice



写真提供：パレスチナYWCA

1 「パレスチナにおける女性の自由、平和、尊厳」と題した国際会議。詳しくは世界YWCA ホームページ (<http://www.worldywca.org>) を参照。

2 The Boycott, Divestment, Sanctions Movementの略。詳しくはBDSのホームページ (<http://www.bdsmovement.net>) を参照。

### 日本・イスラエル両国政府に手紙を送りましょう

100-0014 東京都千代田区永田町2-3-1 首相官邸  
内閣総理大臣 安倍晋三様

102-0084 東京都千代田区二番町3 駐日イスラエル大使館  
駐日イスラエル特命全権大使 ルツ・カハノフ様

日本YWCAのホームページ (<http://www.ywca.or.jp/news/2014/0825news.html>) に手紙の文案を掲載しています。



# 「地に平和」

## 天使のうた声にあわせて



待降節アドベントに入りました。冬の風が雲を払い、青く晴れて匂うような夜空に星々がひときわ輝きを増すこの頃になると、時に目を天にあげ、最初のクリスマスに響いたという天使の合唱「いと高きところには栄光、地には平和」(聖書)の声に和して歌いたくなります。

人はそれぞれのしかたで主の御降誕を迎えるのでしょうか。皆さんはいかがでしょうか。一時この国では巷にクリスマス・ソングが溢れ、街角でケーキを買って家族サービスをするサラリーマンの姿が目につきましたが、さすが今日では身近にも遠い国でも地球上あらゆるところで貧困に喘ぎ、争いや戦火の絶えぬなかそんな風習は消えて、親しい者たちが集まり平和を願いながら食卓を囲むことが多くなっているように思います。

わが家では、菩提樹の蜜蝋で作るろうそくのもとで讃美歌をうたい、クリスマスの物語を読み聞かせる習慣がありました。

しばらく前(1991年)、親しい友人と世界のクリスマス・ストーリーを集め、1冊にしました。『天使がうたう夜に』(久世礼子・小塩トシ子編訳、田中楨子画)がそれで、今も時折読んでいます。

古今東西、クリスマスにまつわる物語はたくさんあり、なかには皆さんにもおなじみの、例えばトルストイ「愛あるところに神あり」、ワイルド「わがままな大男」、セルマ・ラーゲルレーヴ「聖なる夜」などを入れました。でも編者たちは、他に現代を映し出している新しい国々のものも意識して選び、訳出しました。

真夏にクリスマスを迎える明るくおらかな国民性で知られるブラジルの、しかし貧しい家庭や路上生活者の物語や、4人に1人はクリスチャンといわれる韓国のお話二つ(シンガーソングライターの沢知恵さんとその妹さんの訳で)。また毎年多く生まれるアメリカの作品からは、小さな村で演じられた教会学校の聖劇ベイジェントの微笑まし

い挿話など。これらのどれにも、目には見えなくても天使とそのうた声が聞こえてくるようです。

ラーゲルレーヴが、おばあさんに語らせることばにあるように、私たちはみんな聖夜に羊飼いの見たことを見ることができます。「というのも、クリスマスの夜にはかならず天使たちが天空を飛んで来るから」「ただ、わたしたちが天使を見分けられれば」です。

どうか、世界を覆う暗闇のなかにたしかな光を見、平和の希望を抱くことが出来るクリスマスとなりますように。

フェリス女学院大学名誉教授  
小塩トシ子



方法については8面をご覧ください。

あなたもパレスチナの平和を祈ってオリーブの木を贈りませんか？

パレスチナYWCAは、東エルサレムYWCAと共に、破壊された土地にオリーブの木を植えるキャンペーンを西岸地区で行っており、世界中のYWCAがこれを支援しています。

国連の諮問機関である世界YWCAは、パレスチナ住民が国連憲章および世界人権宣言の保障する民族不可侵の権利を否定されている、という国連の認識を支持しています。

パレスチナ自治区では、イスラエルによって土地が強制的に接収されることがあり、その際オリーブの木もなぎ倒されてしまいます。パレスチナの人々の生活と生計にオリーブの実や油は必要不可欠なもの。オリーブの木は希望と幸福のシンボルなのです。



オリーブの木  
キャンペーン募金

エンパワーするNGO



### オリーブの木キャンペーン募金

紛争が続くパレスチナの地に、平和の象徴であり、パレスチナの人々の生活の源であるオリーブの木を贈ります。1口3,000円でオリーブの木1本を贈ることができます。植樹された場所にはプレートに寄付者の名前が刻まれ、パレスチナから証明書が送られてきますので、通信欄にお名前のローマ字表記を必ずご記入ください。

### 東日本大震災被災者支援募金

被災地に暮らす子どもたちのために各地域のYWCAが企画する保養プログラムや、保養のために家族で滞在できるセカンドハウスの事業等、被災者の方々の心と体のケアのために使われます。冬休み、春休みの保養のためにさらなるご協力をお願いいたします。

## クリスマス募金2014 災害・紛争下にある 女性と子どもたちのために



「パレスチナ・オリーブの木キャンペーン募金」とYWCA「東日本大震災被災者支援募金」のために、クリスマス募金を呼びかけます。今年から、日本YWCAのウェブサイトからインターネット募金もできるようになりました。皆様のご協力を、心よりお願い申し上げます。

郵便振替 00170-7-23723

加入者名 公益財団法人 日本YWCA

通信欄に「クリスマス募金(オリーブの木)」または「クリスマス募金(被災者支援)」とお書きください

日本YWCAウェブサイト <http://www.ywca.or.jp/>

- ご協力ありがとうございます
- 賛助費
  - 石川和子 渡辺 暁 大里喜美子
  - 尾崎敦子 片山 恵 小谷野淳子
  - 河野章子 田中宏子 藤沢貴代子
  - 本橋育子 阿部有三 杉田佐紀子
  - 松山恭子 西島 黎 高橋須賀子
  - 森 奏子 泉 和子 山田久美子
  - 実生律子 伊藤悦子 木下由美子
  - 叶 路子 宮澤玲子 五十嵐康子
  - 和田妙子 手島弘美 石井摩耶子
  - 松下俤子 村上知子 伊藤いく代
  - 松本京子 桐村巨子 嶋崎紀代子
  - 中島潤子 八木高子 八重樫照代
  - 秋元靖子 篠原洋子 布村美弥子
  - 辻 加代 池上幸子 澤田みさを
  - 小泉陽子 長 清子 齋藤万里子
  - 三浦篤子 宮澤公子 朽木美奈子
  - 平栗彰子 飯田恵子 露木美奈子
  - 鎌原恵子 水野凛子 伊藤真智子
  - 常葉俊子 萩原 正 森川恵美子
  - 松尾洋子 毛利亮子 三股まさ子
  - 篠山淳子 山田純子 渡邊順子
  - 宋 富子 小松陽子 山口正則
  - 戸田照枝 水原榮子 鴨打美華
  - ランデスハル J・E・ランデス
  - 梶山順子 村瀬さく
  - ピースメーカーズ募金
  - 平和を創り出す女性のリーダーシップ養成
  - 西島 黎 們美津保 村上重二郎
  - 大澤昌早 大澤淳子 笹森勝之助
  - 野尻朝子 野尻和彦 脇坂美奈子
  - 倉橋君夫 村山幸子 阿久戸光晴
  - 河野園子 大木雅子 山高万寿子
  - 和田昭穂 飯島康江 三股まさ子
  - 遠山昂子 杉山道子 近藤承神子
  - 木戸健一 粕谷千穂 石川雄治
  - 香川芳子 石井政利 岡崎公子
  - 石川光子 石井和子 竹内明子
  - 稲澤靖子 飯島有佳 島田麻実
  - 前田寿子 廣田光司 実生律子
  - 石川松子 鈴木伶子 石丸正信
  - 栗林道夫 野口成行 岸 政邦

### お詫びと訂正

10月号の『種』欄に校正ミスがありました。心よりお詫びし、訂正いたします。

誤: 数ヵ月後、彼女の葬儀に参列しました。  
正: 数ヵ月後、彼女の葬儀を司式しました。

- 内山康一 毛利 環 小坂宣雄
- 常葉俊子 波多尚子 武井多佳子
- 学校法人まきば学園まきば幼稚園
- 金城学院中学校
- 日本基督教団滝野川教会
- 日本キリスト教団時田教会
- 日本バプテスト同盟横浜南キリスト教会
- 匿名
- 災害時支援募金
- (国内外の災害被災者支援)
- 常葉俊子 村瀬さく 三股まさ子
- オリーブの木キャンペーン募金
- 国中正人 毛利亮子 露木美奈子
- 梶山順子 富岡美知子 三股まさ子
- ピーチリボンキャンペーン
- (東日本大震災被災者支援募金)
- 本橋育子 内山佳子 小谷野淳子
- 大川孝子 宮澤玲子 中西ト子
- 村上知子 桐村巨子 石井摩耶子
- 辻 加代 常葉俊子 露木美奈子
- 村瀬さく 三股まさ子
- 近畿中国帰国者支援センター受講生一同
- 女子学院同窓会
- とわの森三愛高等学校生徒教職員一同
- 呉YWCA いちいちコンサート
- 弘前YWCA 函館YWCA
- 平塚YWCA 神戸YWCA
- 匿名
- 世界YWCA総会派遣募金
- 内山佳子
- (2014年8月21日〜10月20日現在敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室  
Tel. 03・3292・6121 Fax. 03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 石井摩耶子  
偶数月1日発行  
定価1部 50円  
年間購読料 660円(送料込)  
振替 00170-7-23723

旬な情報 メールマガ登録 y-net@ywca.or.jp にお名前を送ってください  
発信しています フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan